

特定行為研修

精神及び神経症状に係る薬剤投与関連

山梨県立大学

特定行為研修区分別科目 指導者一覧

氏名	所属／職位
講義	
平田 修司	このはな産婦人科 理事 医師/山梨大学医学部 名誉教授
藤原 麻由礼	山梨県立大学 認定看護師教育課程〈認知症看護〉/特任講師
演習	
平田 修司	このはな産婦人科 理事 医師/山梨大学医学部 名誉教授
藤原 麻由礼	山梨県立大学 認定看護師教育課程〈認知症看護〉/特任講師
林 尚三	富士病院 看護部 集中ケア認定看護師／特定行為研修修了看護師
実習	
金丸 和也	山梨県立中央病院 脳神経外科部長
大内 秀高	山梨県立中央病院 精神科部長
内田 勇	山梨県立中央病院 救急外来副看護師長
池田 督司	山梨県立中央病院 集中治療科部長
久保田 正春	日下部記念病院 院長
玉置 寿男	日下部記念病院
杉山 仁視	日下部記念病院 部長
丹羽 政信	日下部記念病院
山口 雅靖	日下部記念病院
望月 崇弘	日下部記念病院 課長
梶原 里美	日下部記念病院
西 慎治	日下部記念病院
丹羽 麻代	日下部記念病院
鈴木 章司	山梨大学医学部大学院 副学部長
松村 国佳	山梨厚生病院 診療部長
宮原 和弘	山梨厚生病院 診療部長
加賀見 さおり	山梨厚生病院 師長
三澤史斉	山梨県立北病院 医療部長
山下 徹	山梨県立北病院 医長
藤森 千晶	山梨県立北病院 主任
石川 大輔	山梨県立北病院 主任

講師一覽

特定行為区分	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連		
	学ぶべき事項	講師	所属
(共通)精神及び神経症状に係る薬剤投与関連の基礎知識	神経系の局所解剖	鷲見 幸彦	国立長寿医療研究センター病院長 神経内科
	神経学的主要症候、主要な神経疾患のフィジカルアセスメント(1)	鷲見 幸彦	国立長寿医療研究センター病院長 神経内科
	神経学的主要症候、主要な神経疾患のフィジカルアセスメント(2)	鷲見 幸彦	国立長寿医療研究センター病院長 神経内科
	主要な神経疾患と病態生理、神経学的検査、神経系の臨床薬理(副作用、耐性と依存性を含む)(1)	鷲見 幸彦	国立長寿医療研究センター病院長 神経内科
	主要な神経疾患と病態生理、神経学的検査、神経系の臨床薬理(副作用、耐性と依存性を含む)(2)	鷲見 幸彦	国立長寿医療研究センター病院長 神経内科
	主要な神経疾患と病態生理、神経学的検査、神経系の臨床薬理(副作用、耐性と依存性を含む)(3)	鷲見 幸彦	国立長寿医療研究センター病院長 神経内科
	主要な神経疾患と病態生理、神経学的検査、神経系の臨床薬理(副作用、耐性と依存性を含む)(4)	鷲見 幸彦	国立長寿医療研究センター病院長 神経内科
	精神系の局所解剖	谷向 知	愛媛大学 大学院医学系研究科教授
	精神医学的主要症候	谷向 知	愛媛大学 大学院医学系研究科教授
	主要な精神疾患と病態生理(1)	谷向 知	愛媛大学 大学院医学系研究科教授
	主要な精神疾患と病態生理(2)	谷向 知	愛媛大学 大学院医学系研究科教授
	主要な精神疾患の面接所見	谷向 知	愛媛大学 大学院医学系研究科教授
	心理・精神機能検査	谷向 知	愛媛大学 大学院医学系研究科教授
	精神系の臨床薬理(副作用、耐性と依存性を含む)	井上 智喜	松山市民病院 薬剤部
(A)抗けいれん剤の臨時的投与	けいれんの原因・病態生理、症状・診断(1)	鷲見 幸彦	国立長寿医療研究センター病院長 神経内科
	けいれんの原因・病態生理、症状・診断(2)	小橋 孝介	松戸市立総合医療センター 小児科
	抗けいれん剤の種類と臨床薬理、適応と使用方法、副作用、投与の判断基準、投与のリスク(有害事象とその対策等)(1)	鷲見 幸彦	国立長寿医療研究センター病院長 神経内科
	抗けいれん剤の種類と臨床薬理、適応と使用方法、副作用、投与の判断基準、投与のリスク(有害事象とその対策等)(2)	小橋 孝介	松戸市立総合医療センター 小児科
	病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準(バーパシミュレーションを含む)(1)	鷲見 幸彦	国立長寿医療研究センター病院長 神経内科
	病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準(バーパシミュレーションを含む)(2)	小橋 孝介	松戸市立総合医療センター 小児科
(B)抗精神病薬の臨時的投与	統合失調症の原因・病態生理、症状・診断(1)	谷向 知	愛媛大学 大学院医学系研究科教授
	統合失調症の原因・病態生理、症状・診断(2)	井川 真理子	平沢記念病院 病院長
	抗精神病薬の種類と臨床薬理	井上 智喜	松山市民病院 薬剤部
	各種抗精神病薬の適応と使用方法、副作用	井上 智喜	松山市民病院 薬剤部

	病態に応じた抗精神病薬の投与とその判断基準、投与のリスク(有害事象とその対策等)	井上 智喜	松山市民病院 薬剤部
	病態に応じた抗精神病薬の投与とその判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)	谷向 知	愛媛大学 大学院医学系研究科教授
(C)抗不安薬の 臨時の投与	不安障害の原因・病態生理、症状・診断(1)	谷向 知	愛媛大学 大学院医学系研究科教授
	不安障害の原因・病態生理、症状・診断(2)	鷲見 幸彦	国立長寿医療研究センター病院長 神経内科
	不安障害の原因・病態生理、症状・診断(3)	佐野 信也	防衛医科大学校 医学教育部医学科教授
	抗不安薬の種類と臨床薬理、適応と使用方法、副作用、投与のリスク(有害事象とその対策等)(1)	井上 智喜	松山市民病院 薬剤部
	抗不安薬の種類と臨床薬理、適応と使用方法、副作用、投与のリスク(有害事象とその対策等)(2)	鷲見 幸彦	国立長寿医療研究センター病院長 神経内科
	病態に応じた抗不安薬の投与の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)	谷向 知	愛媛大学 大学院医学系研究科教授

研修概要

研修内訳	講義(14時間)	視聴時間 45 分＋講義確認テスト 15 分	
	演習(4時間)	視聴時間(イントロ)5 分＋グループワーク 45 分＋視聴時間(解説)10 分 ※演習は e-ラーニング教材を活用して指定研修機関で行う	
	試験	科目試験合計	60 分
		精神及び神経症状に係る薬剤投与関連の基礎知識	15 分
		抗けいれん剤の臨時の投与	15 分
		抗精神病薬の臨時の投与	15 分
		抗不安薬の臨時の投与	15 分
評価方法	講義:e-ラーニングの受講及び講義確認テスト		
	演習:ペーパーシミュレーションによる演習及び模擬講義		
	試験:e-ラーニング上もしくは集合で実施		
参考図書	※全日病 S-QUE 提供の講義資料をダウンロード 1. アメリカ精神医学会,新井平伊監訳,BPSD に対する抗精神病薬治療ガイドライン,株式会社ワールドプランニング,2017. 2. 張賢徳他,精神科面接マニュアル 第 3 版,メディカル・サイエンス・インターナショナル,2013. 3. 服部孝道,一目でわかるニューロサイエンス 第 3 版,メディカル・サイエンス・インターナショナル,2009. 4. 姫井昭男,精神科の薬がわかる本 第 4 版,医学書院,2019. 5. 稲田健,本当にわかる精神科の薬はじめの一步改訂第3版～具体的な処方例で経過に応じた薬物療法の考え方が身につく!~,羊土社,2023. 6. 井上猛他,こころの治療薬ハンドブック 第 14 版,星和書店,2023. 7. 井上令一,カプラン臨床精神医学テキスト第 3 版,メディカル・サイエンス・インターナショナル,2016. 8. 岩脇淳,カプラン臨床精神医学ハンドブック 第 4 版,メディカル・サイエンス・インターナショナル,2016. 9. 神庭重信,カプラン精神科薬物ハンドブック エビデンスに基づく向精神薬療法 第 5 版,メディカル・サイエンス・インターナショナル,2015. 10. 加藤隆弘,精神系のくすり,メディカ出版,2021. 11. 厚生労働省,高齢者の医薬品適正使用の指標(総論編),2018 https://www.mhlw.go.jp/content/11121000/kourei-tekisei_web.pdf 12. 松浦雅人,内科医のための認知症の BPSD(行動・心理症状)への向精神薬の使い方,診断と治療社,2022. 13. 松崎朝樹,精神診療プラチナマニュアル 第 2 版,メディカル・サイエンス・インターナショナル,2020. 14. 三村将,精神科診療,診断と治療社,2022.		

	15. 長嶺敬彦,抗精神病薬の「身体副作用」がわかる,医学書院,2006. 16. 中村純他,抗精神病薬完全マスター,医学書院,2012. 17. 日本臨床精神神経薬理学会専門医制度委員会編集,専門医のための臨床精神神経薬理学テキスト,星和書店,2021. 18. 日本老年医学会,日本医療研究開発機構研究費・高齢者の薬物治療の安全性に関する研究班,高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015,日本老年医学会,2015. https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/info/topics/pdf/20170808_01.pdf 19. 日本神経精神薬理学会/日本臨床精神神経薬理学会編集,統合失調症薬物治療ガイドライン医学書院,2022. 20. 落合慈之,精神神経疾患ビジュアルブック,Gakken,2015. 21. S.David Gertz,佐藤宏,リープマン神経解剖学第 3 版,メディカル・サイエンス・インターナショナル,2008. 22. StephenM.Stahl,仙波純一,ストール精神薬理学エッセンシャルズ 第 5 版,メディカル・サイエンス・インターナショナル,2023. 23. 山内俊雄,精神・心理機能評価ハンドブック,中山書店,2015. 24. 吉村玲児,精神科薬物治療 こんなときどうするべきか,医学書院,2015.
備考	* e-ラーニングにおける講義は、各自のパソコンで、自宅等で視聴して差し支えない。 * 質問事項がある場合は、全日病 S-QUE が提供する掲示板を参照、あるいは指導者まで連絡、適宜指導を受ける。 * 指導者は、インターネットを通じて受講生の履修状況、設問の回答内容を確認し、必要に応じて指導、質疑に対する応答を行う(祝祭日を除く)。 * 1回以上レポートの提出を行い、指導者から添削指導を受ける。レポートの内容は学修進度に応じて履修開始後、連絡される。 * 演習は、講義室に集合し、全日病 S-QUE が提供する教材に沿って行う。 * 科目修了試験(筆記試験)は、各時間終了後に行われる確認テストを参考に出題し、指導者の監督の下、本人確認を行った上で、講義室で集合して行う。 * 指導者は、必要に応じて受講者の理解を面接等で確認し、理解が不十分と判断された場合は、臨時的講義を行う。講義の場所は、講義室とする。

科目名	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連		33 時間		
特定行為名	抗けいれん剤の臨時の投与				
指導者	平田 修司(講義・演習)、藤原 麻由礼(講義・演習)、林尚三(演習)				
概要	医師の指示の下、手順書により、身体所見(発熱の程度、頭痛や嘔吐の有無、発作の様子等)及び既往の有無等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、抗けいれん剤を投与する。				
単元		時間	講義形態	講師	指導者
(共通)精神及び神経症状に係る薬剤投与関連の基礎知識					
1) 神経系の局所解剖		1	講義	鷺見	平田 藤原 林(演習のみ)
2) 神経学的主要症候、主要な神経疾患のフィジカルアセスメント(1)		1	講義	鷺見	
3) 神経学的主要症候、主要な神経疾患のフィジカルアセスメント(2)		1	講義	鷺見	
4) 主要な神経疾患と病態生理、神経学的検査、神経系の臨床薬理(副作用、耐性と依存性を含む)(1)		1	講義	鷺見	
5) 主要な神経疾患と病態生理、神経学的検査、神経系の臨床薬理(副作用、耐性と依存性を含む)(2)		1	講義	鷺見	
6) 主要な神経疾患と病態生理、神経学的検査、神経系の臨床薬理(副作用、耐性と依存性を含む)(3)		1	講義	鷺見	
7) 主要な神経疾患と病態生理、神経学的検査、神経系の臨床薬理(副作用、耐性と依存性を含む)(4)		1	講義	鷺見	
8) 精神系の局所解剖		1	講義	谷向	
9) 精神医学的主要症候		1	講義	谷向	
10) 主要な精神疾患と病態生理(1)		1	講義	谷向	
11) 主要な精神疾患と病態生理(2)		1	講義	谷向	
12) 主要な精神疾患の面接所見		1	講義	谷向	
13) 心理・精神機能検査		1	講義	谷向	
14) 神経系の臨床薬理(副作用、耐性と依存症を含む)		1	講義	井上	
(A)抗けいれん剤の臨時の投与					
1) けいれんの原因・病態生理、症状・診断(1)		1	講義	鷺見	
2) けいれんの原因・病態生理、症状・診断(2)		1	講義	小橋	
3) 抗けいれん剤の種類と臨床薬理、適応と使用方法、副作用、投与の判断基準、投与のリスク(有害事象とその対策等)(1)		1	講義	鷺見	
4) 抗けいれん剤の種類と臨床薬理、適応と使用方法、副作用、投与の判断基準、投与のリスク(有害事象とその対策等)(2)		1	講義	小橋	

5) 病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)(1)	1	講義	鷺見	
6) 病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)(2)	1	講義	小橋	

特定行為名	抗精神病薬の臨時の投与				
指導者	平田 修司(講義・演習)、藤原 麻由礼(講義・演習)、林尚三(演習)				
概要	医師の指示の下、手順書により、身体所見(興奮状態の程度や継続時間、せん妄の有無等)が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、抗精神病薬を投与する。				
単元		時間	講義形態	講師	指導者
(B)抗精神病薬の臨時の投与					
1) 統合失調症の原因・病態生理、症状・診断(1)		1	講義	谷向	平田 藤原 林(演習のみ)
2) 統合失調症の原因・病態生理、症状・診断(2)		1	講義	井川	
3) 抗精神病薬の種類と臨床薬理		1	講義	井上	
4) 各種抗精神病薬の適応と使用方法、副作用		1	講義	井上	
5) 病態に応じた抗精神病薬の投与とその判断基準、投与のリスク(有害事象とその対応等)			講義	井上	
6) 病態に応じた抗精神病薬の投与とその判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)		1	講義	谷向	
特定行為名	抗不安薬の臨時の投与				
指導者	平田 修司(講義・演習)、藤原 麻由礼(講義・演習)、林尚三(演習)				
概要	医師の指示の下、手順書により、身体所見(不安の程度や継続時間)等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、抗不安薬を投与する。				
単元		時間	講義形態		指導者
(C)抗不安薬の臨時の投与					
1) 不安障害の原因・病態生理、症状・診断(1)		1	講義	谷向	平田 藤原 林(演習のみ)
2) 不安障害の原因・病態生理、症状・診断(2)		1	講義	鷲見	
3) 不安障害の原因・病態生理、症状・診断(3)		1	講義	佐野	
4) 抗不安薬の種類と臨床薬理、適応と使用方法、副作用、投与のリスク(有害事象とその対応等)(1)		1	講義	井上	
5) 抗不安薬の種類と臨床薬理、適応と使用方法、副作用、投与のリスク(有害事象とその対応等)(2)		1	講義	鷲見	
6) 病態に応じた抗不安薬の投与の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)		1	講義	谷向	
科目修了試験		1	試験		

科目名	臨地実習		
指導者	平田 修司、藤原 麻由礼		
ねらい	特定行為研修の共通科目および区分別科目の講義・演習によって習得した実践的な理解力、思考力および判断力ならびに高度かつ専門的な知識および技能を向上する能力を統合することで、医師の指示のもと、手順書により特定行為を行う能力を身に着けることができる。		
単元			実習時間
1) 精神及び神経症状に係る薬剤(抗けいれん剤・抗精神病薬・抗不安薬)投与の必要性を判断し、投与案が立案できる。 2) 抗けいれん剤の適応となる主な疾患。病態を理解できる。 3) 抗けいれん剤の適応 (1)抗けいれん剤の臨時の投与 5 症例以上 (2)抗精神病薬の臨時の投与 5 症例以上 (3)抗不安薬の臨時の投与 5 症例以上			
評価方法	実習出席日数、実習態度、実習記録、自己の課題達成度から実習評価基準に基づき総合的に評価する。		